

能登町の魅力再発見プロジェクト

メンバー：佐々木 心音（融合学域観光デザイン学類4年）、艦居 美穂子（融合学域先導学類4年）、右田 芽生（融合学域先導学類3年）、高木 祐輔（融合学域先導学類3年）、樋口 尚都（融合学域先導学類3年）
三田村 麻菜（融合学域観光デザイン学類2年）、加藤 理佐（融合学域観光デザイン学類2年）

担当教員：融合研究域融合科学系 講師 豊島 祐樹

【プロジェクトの概要】

本プロジェクトは、能登町で暮らす人々とともに、地域の過去・現在・未来について語り合い、日常の中にある魅力や価値を再発見することを目的とした取り組みです。
大学生という外部の立場から地域に関わり、展示やワークショップ、ヒアリングを通して、世代や立場を越えた対話と共有の場を創出しました。

【プロジェクトの背景】

2024年1月に発生した能登半島地震以降、能登町では復興に向けた多くの話し合いや活動が行われてきました。一方で、「これからどのように暮らしていくのか」「このまちを将来どう残していきたいのか」といった、暮らしや価値観に関わる問いは、十分に共有されていないという課題がありました。
特に、復興の議論では行政や一部の住民の声が中心となり、子育て世代や中高生など、将来を担う立場の声が表に出にくい現状が見られました。こうした背景から、世代や立場を越えて気軽に語り合える場の必要性を強く感じ、本プロジェクトを立ち上げました。

【プロジェクトの目的】

多様な地域住民が、能登町の過去・現在・未来について共に語り合い、体験し、共有する機会をつくることで、能登町という地域の「暮らしの魅力」「文化的資源」「人のつながり」を再発見し、持続的に「住みたい」「関わりたい」と思えるまちにする。

【活動内容】

【能登町ってどこ？】



【スケジュール】

- 8/28 ● のと未来創造学生プロジェクト採択
企画ブラッシュアップ
- 10/25 ● ①お母さんワークショップ実施
- 10/29 ● ②高校生ヒアリング実施
- 11/13 ● ③松波中学生ヒアリング実施
- 11/14 ● ③柳田中学生ヒアリング実施
- 11/25 ● ④展示開始
- 11/26 ● ③能都中学生ヒアリング実施
- 12/13 ● ④展示終了

①お母さんワークショップ

能登町で暮らすお母さんを対象に、日々の暮らしや子育ての中で感じている思いや意見を共有する場を実施しました。



②高校生ヒアリング

能登高校の生徒を対象に、卒業後の能登町との関わりや生活に対する不安・不便さについてリアルな声を聞き取りました。



③中学生ヒアリング

能登町の3校の中学生を対象に、能登町の好きなおとこや不満、将来の暮らしや進路についてヒアリングを実施し、若い世代のリアルな声を聞き取りました。



④展示「大学生から見た能登町展」 全7大学28名の学生が協力

能登町を訪れた大学生が感じた魅力や気づきを、写真と言葉で展示。来場者がタイトルや感想を書き込む参加型展示を行い、大学生と地域住民が互いの視点を共有する場を創出しました。



【まとめ】

本プロジェクトを通して、能登町には世代や立場を越えて「この町が好き」「関わり続けたい」という思いが共有されていることを実感しました。展示やヒアリング、対話の場を通じて、日常の中にある当たり前の暮らしや人とのつながりこそが、能登町の大きな魅力であると再認識しました。

復興はインフラや建物の再建だけでなく、人の声や記憶、思いを丁寧にすくい上げていく過程でもあると感じています。本プロジェクトで得た学びを大切にしながら、今後も能登のために自分たちに何ができるのかを考え、関わり続けていきたいと考えています。

本活動にご協力いただいた地域の皆様、関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。